

第3592回 帯広ロータリークラブ 例会

帯広ロータリークラブ・網走西ロータリークラブ 連携

～ 人口減少時代におけるサステナブルな『街づくり』とは ～



平成30年10月17日(水)

社会奉仕委員会

委員長 野村 文吾

1. 人口減少時代における サステイナブルな『街づくり』のため

地方の公共交通を取り巻く現状

- ①エリアが広大なためモータリゼーションが堅持されている
- ②路線バス利用者の減少と人口減少も影響し始めている
- ③路線バスの便数や路線の維持が困難になりつつある
- ④自家用車の運転に不安な高齢者が激増している
- ⑤公共交通は「街づくり」に必要な不可欠なインフラである
- ⑥利用者を増やして公共交通の確保・維持が必要である

2. 街づくりのインフラの一つである 『公共交通』の活性化策

2. 『不安』を解消するために (1) バスの『乗り方』の説明 『目的地』の提案

帯広市のバスについて

行き先表示

バス乗降の表示
乗車バス

バス乗降の表示
降車バス

バスの乗り方

1. 乗車ボタンを押します。乗車ボタンを押すと、乗車ボタンが点灯します。
2. 乗車ボタンを押したら、乗車ボタンが点灯します。乗車ボタンが点灯したら、乗車ボタンを押します。
3. 乗車ボタンを押したら、乗車ボタンが点灯します。乗車ボタンが点灯したら、乗車ボタンを押します。
4. 乗車ボタンを押したら、乗車ボタンが点灯します。乗車ボタンが点灯したら、乗車ボタンを押します。
5. 乗車ボタンを押したら、乗車ボタンが点灯します。乗車ボタンが点灯したら、乗車ボタンを押します。

目的別時刻表 (通院・買物編) 音更線

7時台～21時台まで30分間隔で運行しております。
(時刻の詳細は十勝バス発行の時刻表をご参照下さい)

音更から帯広駅前・西帯広方面へのバスの方向 (行先表示) は下記の通りの表示になっております。

41 帯広駅前 → 大谷 高 西 音 更 ニュータウン

市内在住高齢者対象のワンコインバス好評発売中

石田整形外科クリニック (十勝バス本社)
(国道西22条)
(西帯広駅前)
(西帯広センター前バス停)
(三栄高校西帯広駅前バス停)
(西22条4丁目バス停)
(新緑通22条バス停)
(新緑通21条バス停)
(大谷高校前バス停)
(新緑通16条バス停)
(西12条13丁目バス停)
(西17条4丁目バス停)
(西22条4丁目バス停)
(新緑通22条バス停)
(新緑通21条バス停)
(大谷高校前バス停)
(新緑通16条バス停)
(西12条13丁目バス停)
(西17条4丁目バス停)
(西22条4丁目バス停)

音更から帯広駅前・西帯広方面へのバスの方向 (行先表示) は下記の通りの表示になっております。

41 帯広駅前 → 音更

200m～300mおきにバス停がありますので最寄のバス停をご利用下さい。

2. アナログによる交通の見える化

(2) 商品化：日帰り路線バスパック

路線上の施設＋路線バス
お互いの強みを
組合せた企画商品

観光交通と生活交通の
一体化により
生活交通を支える

利用者数の推移

2010年度：2,100名
2012年度：3,200名
2014年度：4,600名
2015年度：5,000名
2016年度：5,400名
2017年度：6,500名



『観光立国インバウンド政策』に潜む 地方の特性による重要な課題

- ①観光旅行者は、ほとんどが個人旅行(FIT)へ移行
- ②大都市圏の若年層は、既に免許不保持傾向が顕著
- ③インバウンド(中国)は、国際免許取得の制限に課題
- ④インバウンド(東南アジア)は、冬期間の運転に課題
- ⑤個人旅行(FIT)向けに、二次交通がますます重要
- ⑥しかし、最終目的地まで移動方法が見えていない

2. ITによる交通の見える化

(3) 目的地検索型・経路検索型 乗換案内アプリ『もくいく』の活用が必須！

時刻表・路線図
運賃等データ提供・確認

 **十勝バス TOKACHI BUS**

バス会社のノウハウ提供・コンサル

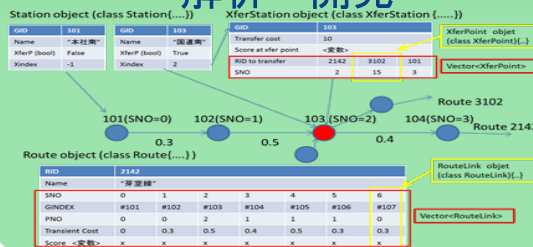


バス会社独自のノウハウ投入
利用者目線のシステムコンサル

システム設計・確認
コンサルテーション



経路探索アルゴリズム
解析・開発






**アプリケーション
アルゴリズム連携**





設計・開発・クラウド
環境提供

クラウドシステム
低コスト運用
柔軟性・データ蓄積

3. 地域内連携・地域外連携による 公共交通ネットワーク構築の必要性

(1) 二次交通充足地域の創造

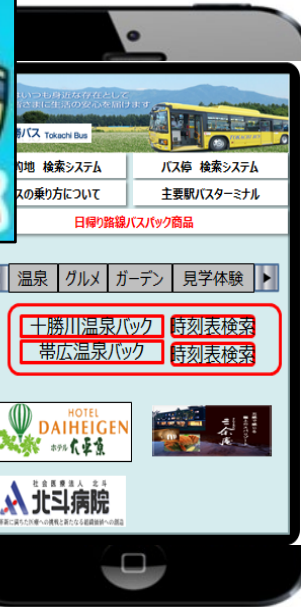
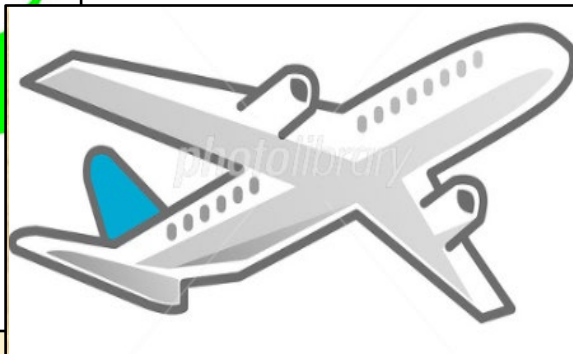
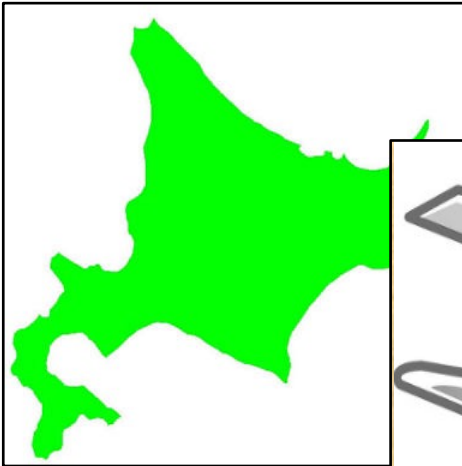


1

3. 地域外連携

(2) JR北海道(交通新聞社)と 競争から協創で連携

< 石勝線特急列車のみで導入 >



4. 地区補助金を活用した 網走西RCと帯広RCとの 連携での具体的な取組み

4. 地区補助金を活用した具体的な取組み

(1) 商品化したパックを発信する

ホームページの作成

< 地区補助金 >
約300,000円



< 事業予算 >
約360,000円

地区補助金約300,000円
網走西RC30,000円
帯広RC30,000円



4. 網走西RCメンバーによる具体的な取組み

(2) SNS活用による情報発信

 十勝バス株式会社
2013年12月30日

【今年1年本当にお世話になりました】

今年最後のFB投稿とさせていただきます。

本年3月9日より、当社公式フェイスブックを再開させていただきました。
フェイスブックを行ったことのない者たちでの再開で、悪戦苦闘の連続でしたが、何とかここまで来ることができました。

さらに多くの皆さまからの「いいね」や励ましの言葉、ご意見やご質問など本当に皆様方の温かいお気持ちに心より感謝いたします。

2014年も引き続き、最新情報をお伝えしていくと共に、お客さまと当社とのコミュニケーションの場として親しんでいただける投稿を目指していきたくております。

皆さま、寒いが続いておりますのでお体には十分お気をつけていただき、良いお年をお迎えください。
そして、来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

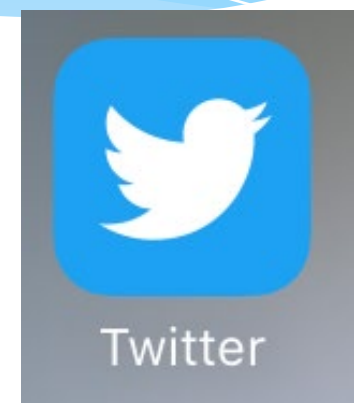
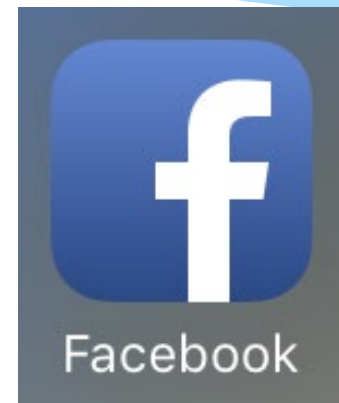


1,440人がこの投稿を見ました

投稿の広告を出す

いいね！を取り消す · コメントする

198



4. 帯広RC・網走西RCによる具体的な取組み

(3) 双方のRCの事業の際に情報発信

* 出向いて行つての市民への発信



サポート
体制

ライフスタイル
提案

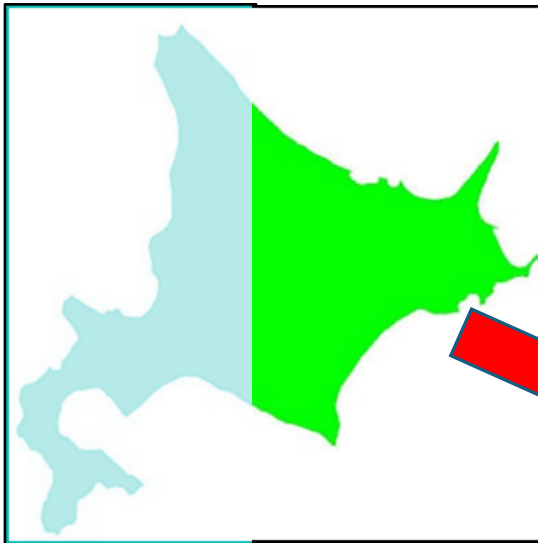


5. まとめ

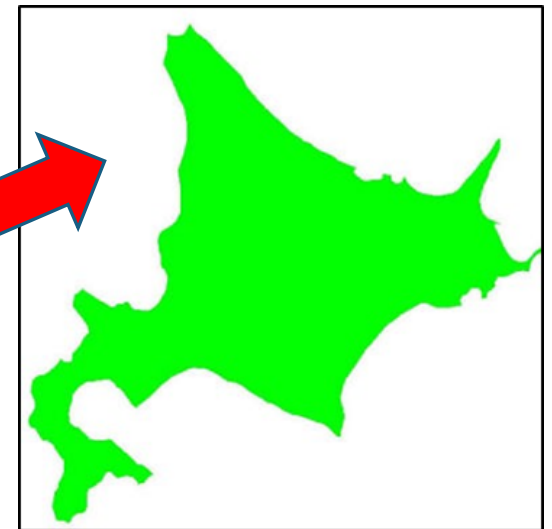
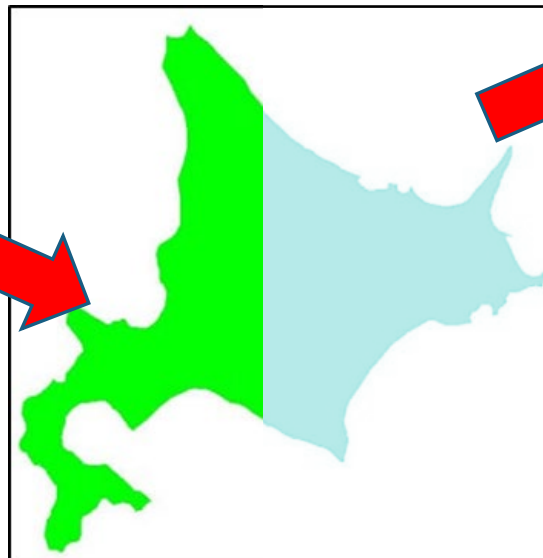
5. まとめ

(1) 2500地区で展開のイメージから

< 2500地区で展開 >



< 2510地区で展開 >



< 北海道全域で展開 >

5. まとめ

(2) 北海道庁「北海道交通政策総合指針」策定

『北海道交通政策総合指針』 《概要版》	
人とモノの流れが加速する！ 北海道の新たなステージを創る！ 安全・安心・便利で快適な交通ネットワークを道民みんなで実現する！	
I 策定の趣旨	本道交通を取り巻く環境変化に的確に対応しながら、あらゆる関係者が協働して交通に関する施策を一体となって推進し、本道のさらなる発展を支える交通ネットワークを実現するため策定。 計画期間：2018(平成30)～2030年度（北海道新幹線の札幌開業予定時期）
II 交通ネットワークの現状と課題	人口減少と広域分散型社会と災害対応とモノの動きと海・空のネットワーク強化と自動走行など技術革新と交通機関等（鉄道・バス・タクシー・航空・船舶・高規格幹線道路・物流）
III 交通ネットワーク形成の基本的な考え方	2030年頃の北海道交通の「めざす姿」▶世界をひきつけ、地域の未来を創る交通ネットワークの実現 4つの基本方向：①交流人口の拡大 ②ストレスのない移動 ③安全・安心な地域社会 ④防災機能の強化 ・人流と物流が抱えている共通課題を踏まえ、人流・物流が一体となった効率的・効果的な施策を展開 ・今後3年間で集中的に進める取組を5つの重点戦略として設定し、本道のさらなる発展を加速
IV 道民の暮らしや経済活動を支える公共交通ネットワーク	
1 交通ネットワーク形成図	3つの交通ネットワーク形成図
北海道型公共交通ネットワーク（3つの階層）	道央・道南地域 道北地域 道東地域
幹線交通 中核都市間等を結ぶ本道の骨格となるネットワーク	新千歳空港や新函館北斗駅といった交通拠点が集積し、本道経済を強く牽引
広域交通 中核都市や地域中心都市と周辺市町村などを結ぶネットワーク	豊かな自然環境や雄大な大地を活用し交流人口を呼び込み、経済活性化を促進
生活圏交通 単一市町村・周辺エリアでの日常生活に密接した交通ネットワーク	圏域内の都市間の移動や観光資源を巡る広域周遊により、経済活性化を加速
2 鉄道網の展望（持続的な鉄道網の確立に向けた基本的な考え方や指針における具体的取組）	
3 空港の展望（新千歳、稚内、釧路、函館、旭川、帯広、苫小牧、中標津、紋別、釧路（利尻・礼文・奥尻）、丘珠）	
4 港湾の展望（室蘭、苫小牧、函館、小樽、釧路、石狩湾新港 など）	

公共交通連携で実証実験

道が推進 十勝で3年間

道は、各事業者の連携を「ムレス交通戦略」に基づき、深めて利便性の高い公共交通を取り組み。

乗り継ぎ利便性議論

シームレス戦略会議が初会合

利便性の高い公共交通を目指す「シームレス交通戦略推進会議」（議長・岸邦宏北大大学理工学研究所准教授）の第1回会合が22日、帯広市内の「とから館」で開かれた。利便性の向上策として考えられる「利用希望に立つた乗り継ぎサービスの設定」や「乗り換えアプリのさらなる情報提供」などについて、参加者が意見を交わした。

道が3月に策定した「北海道交通政策総合指針」に基づき取り組む「シームレス交通戦略」は、重点目標の一つで、鉄道やバス、タクシーなどの連携で、利便性が向上し、ストレスのない移動の実現を目指す。十勝はバスとタクシー業者で構成する「十勝圏 次交通活性化推進協議会」があるが、各事業者間の連携の素地があり、3年間で実証実験を行うモデル地域に選ばれている。この日は、道の関係者や管内の交通事業者など27人が出席。意見交換では、参加者から「乗り換えアプリ

(3) シームレス交通戦略

具体的な取組(2018～2020年度)

連携の促進・強化

- ◆地域の課題解決に向けた交通事業者、行政、住民など関係者に
- ◆関係者が一体となった最適な交通ネットワークの構築

方策1 地域の関係者による検討会議の設置

交通モード間の連携や乗換に便利な交通結節点の整備など、誰もが利用しやすい交通ネットワークの実現に向け、交通事業者や関係団体、自治体など関係者間の連携を取り組む体制を構築する。

JR→バス 接続スムーズ

ダイヤ調整、停留所駅直結に

2018年(平成30)5月19日(土曜日)

道が十勝圏内において、JRとバスの接続をスムーズにするための取り組みを進めている。具体的には、JRの列車到着後、バスが駅構内から出てくるようにダイヤを調整し、乗客がスムーズに乗り換えることができるようにしている。

また、バス停留所とJR駅を直結する取り組みも進めている。これにより、乗客が駅とバス停留所を往復する際の不便さを解消し、利便性を向上させることが期待されている。

取り組みを進めているとあり、実験の適地には選ばれた。実験期間は今年度から3年間。5月には国、道、市町村、交通事業者、経済団体、有識者による「シームレス交通戦略推進会議」(仮)は、まだ利用の広がりがなく、地域住民や観光客が利用しづらい状況に悩んでいる。道は、この状況を打開するために、バスと鉄道の接続をスムーズにする取り組みを進めている。具体的には、バスのダイヤを調整し、JRの列車到着とバスの出発を同期させるようにしている。また、バス停留所とJR駅を直結する取り組みも進めている。これにより、乗客が駅とバス停留所を往復する際の不便さを解消し、利便性を向上させることが期待されている。

北海道庁 2018年3月策定

5. まとめ

(3) 乗換案内アプリ『もくいく&バスロケ』で 北海道全域が繋がる！

北海道全域が繋がる！
北海道の路線が見える化！



お客さまにとって、選択肢が多い方が、
使い勝手が良いアプリを選べる！



もくいく



ジョルダン
乗換案内



Yahoo!
乗換案内



NAVITIME



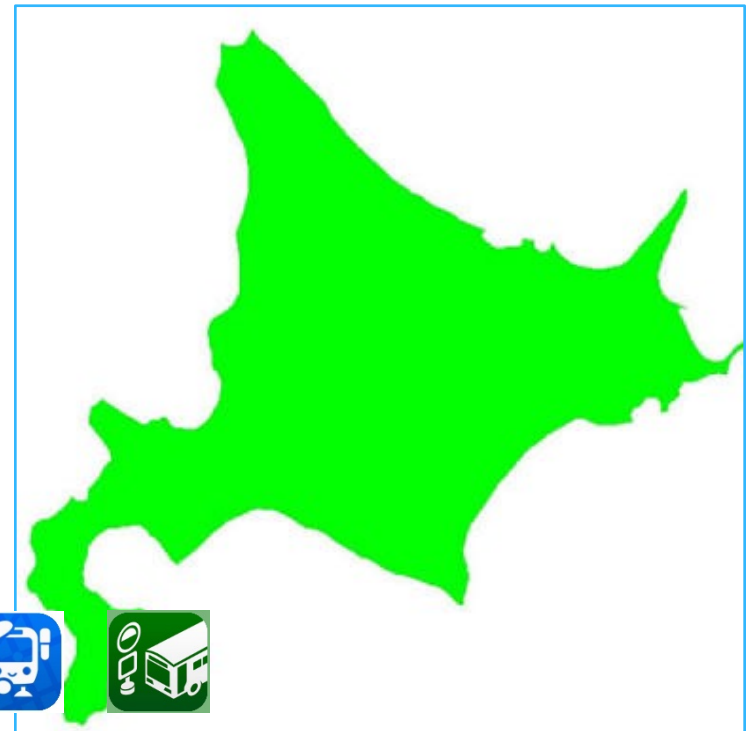
駅探



駅すぱあと



バスナビ



3. まとめ

(4) 乗換案内アプリ『もくいく&バスロケ』で
全国・世界が繋がる！

海外に繋がる！
海外から繋がる！



人工知能AIを搭載



第3592回 帯広ロータリークラブ 例会

帯広ロータリークラブ・網走西ロータリークラブ 連携

～ 人口減少時代におけるサステナブルな『街づくり』とは ～

ご清聴、ありがとうございました

十勝バス株式会社 代表取締役社長 野村 文吾